

## メッセージ

第16回「核戦争に反対し、核兵器廃絶を求める医師・医学者のつどい」のご盛會を祝し、皆様に心からのご挨拶を申し上げます。

広島・長崎の被爆から60年という、節目の年を迎えました。

残念なことに、私たち被爆者の悲願である、核兵器廃絶も、原爆被害への国家補償もいまだ実現していません。

今また、九条を含む憲法の「改正」論が横行し、日本が再び戦争をする国になるのではないかとの危惧が、平和を願う人々の胸に生まれています。

泥沼化しているイラク戦争は一向に終わらず、憲法無視の自衛隊派遣も続けられています。

このような中、核戦争体験者としての私達の役割は、前にも増して重要になってきていると自覚しています。

核兵器は悪魔の兵器であり、その使用はもちろん、存在することも決して許すことはできません。私たちは、ふたたび被爆者をつくらないため、原爆被害への国家補償と核兵器廃絶の実現をめざして、生き、語り、訴え、たたかいつづけます。

ともに手を携え、核兵器のない平和な世界を作り出していきましょう。

みなさまの熱心なご活動に深く敬意を表しますとともに、今後のより一層のご発展を心より念ずるものであります。

2005年 10月 22日

日本原水爆被害者団

